

## 電源地域 振興センター事業

# 活用 事例 紹介

当センターが展開する各種事業の平成25年度における「現地開催型 産品相談・商談会」は5回の開催予定のうち、2月末現在で4回開催されています。

和歌山県田辺周辺広域市町村圏組合、鹿児島県薩摩川内市、徳島県三好市「三好ブランド構築委員会」、愛媛県大洲市物産協会、といった方々の主催で行われました。

和歌山県田辺周辺広域市町村圏組合は、平成23年から毎年開催しており、「特産品」の開発・販路拡大を目指すものとして、5回を数え、圏内の事業者には、すっかり定着した「相談・商談会」となっております。今年度は、19の生産者・事業者が参加して開催されました。

先進的な「シティ・セールス」事業で知られる鹿児島県薩摩川内市では、12の事業者が参加して、観光PRおよび産品開発、販路拡大についてのアドバイスを受けました。なかには、全国的に通用する産品の可能性との評価を受け、ブラッシュアップを行い、展示会への出展の機会を得た事業者もいました。

徳島県三好市は、特産品のブランド化を推進していますが、パッケージや包装紙のデザイン訴求力が課題となっていました。5事業者が参加した今回の「相談・

## 参加者の時間的・費用的負担が軽減される 「現地開催型 産品相談・商談会」の活用

当センターでは、流通関係者をアドバイザーとして招聘し、地域特産品の開発・改良および販路拡大についての具体的なアドバイスを行う「産品相談・商談会」事業を行っています。この事業は、年4回、定期的に行うもの、随時に開催するもの、現地開催型の産品相談・商談会の3種類のメニューを用意しております。

そのうちの「現地開催型 産品相談・商談会」は、ご希望のアドバイザーを派遣して面談を行うものです。面談の他に講演会や製造現場視察などを組み合わせることも可能となっています。

商談会」では、新商品として開発された「大福もち」のパッケージや、特産品である「三野はれひめ」というみかんの箱のデザインなどについて、アドバイザーから指摘があり、参加者は包装デザインの重要性などを知る良い機会となりました。また、なかには「ギフト商品」として展開する可能性を見つけた商品もありました。

愛媛県大洲市では、市内で製造・加工される商品や、基準に適合する品質等を備えた農林水産物を「大洲ええモンセレクション」として認定し、流通拡大と地域産業の活性化を図っています。今回は「食の相談・商談会&講演会in大洲」と題され、9事業者が参加して、バイヤーとの間で活発な商談を繰り広げ、地元のケーブルテレビも取材に来る盛況ぶりでした。商談会に続いて開催されたバイヤーによる講演会では、首都圏における魅力的な商品や、百貨店におけるギフト商品の現況などについて話がありました。

参加者・受講者からは「商品開発の大きなヒントになった」という声も聞かれ、大洲の特産品のレ

認定マーク



大洲市講演会



ベルを、ますます上げていく契機となったようです。

このように、「現地開催型 産品相談・商談会」は、地元で実施することで、参加者の時間的・費用的負担が軽減され、現地訪問によりバイヤーの地域への認知度が向上し、実施後もバイヤーと相談・商談しやすい関係の継続が期待できるものです。

平成26年度も、「現地開催型 産品相談・商談会」の開催を随時受け付け、各種ご相談に応じます。ぜひ、この機会に下記までお気軽にお問合わせください。

■地域振興部 振興業務課

☎03-6372-7305

eメール: [hanbai@dengen.or.jp](mailto:hanbai@dengen.or.jp)



田辺市



薩摩川内市



三好市